

クリスマス・ドラマスペシャル

ヴァン・ダイク原作 山田稔／小川政弘脚色

「もう一人の博士」

(音楽) 「ベン・ハー」オリジナルサウンドトラック版 MGMポリドールMM2009
①賢者の礼拝 ②愛のテーマ ③母の愛 ④ユダヤに帰る ⑤十字架の道
⑥奇蹟とフィナーレ

<前編>

(音楽) (オープニング。夜)

第1景 不思議な星と博士たち

ナレーション 今からざっと 2000 年前、ユダヤの国をずっと遠く離れた東のほう、ペルシャという国に、とても偉い三人の博士たちが住んでいました。
ある夜の^よこと、西の空に、一つの大きな星が輝きだしました。

カスパル 見たか、メルキオル。

メルキオル おお、見たとも。あの明るさはどうじゃ。これまでに見たこともないほどの輝きじゃ。のう、バルサザル。

バルサザル いかにも。あのような星は初めてじゃ。これは、何かを告げる特別の星に違いない。カスパル、星座表と預言者の^{ふみ}書を持ってきてくれ。

カスパル 分かった。取ってくる。

バルサザル それからメルキオル。あの星の正確な位置と、現れ始めた“時”を割り出してくれ。

メルキオル よし、すぐに調べよう。

ナレーション 三人の博士は、この新しい星について詳しく調べました。

バルサザル 西の方^{かた}33 度、交わることの 38 度。うむ、あれはユダヤの国じゃ。そしてこの年のこの季節、この時刻に初めて現れる星というは…。

カスパル おお、こ、これじゃ！「この星の現るる時、西の方、ユダヤの国に、約束のメシヤ、まことの救い主、生まるべし。」

メルキオル そうか！ ついに生まれたか！ やがて時が来ればと、我らの先祖より語り継がれてきたお方を、この目で拝めるのだな。よし、我らは早速、旅に出よう。あの星が導いてくれるはずじゃ。

ナレーション こうして三人は、この星を目当てに、広い砂漠を、西へ西へと旅に出かけました。ラクダに乗り、野を越え、砂漠を越え、その手には、救い主にささげる黄金、におい油、そして高価な薬をしっかりと携えていました。

第2景 ボルシツパの丘

ナレーション さて、そのころ、バビロンのボルシツパの丘にある地球の宮に、馬を連れて一人の立派なペルシャの博士が、息を弾ませながら駆けつけました。

(効果音) (馬の疾走。いななき)

アルタバン (息せき切って)カスパル！ メルキオル！…バルサザ〜ル！…いない。やっぱり間に合わなかったか。約束の待ち合わせ期限をもう6日も過ぎてしまったからな。だが、どこぞにことづけはないかな。む、あれは？

ナレーション アルタバンは、宮の石垣の間から、一通の手紙を見つけました。

(効果音) (巻物を開く音)

アルタバン (読む)「アルタバン、われらはあなたと(カスパルの声にオーバーラップ)約束した4日目の夜中過ぎまで、あなたの来るのを待っていたが、もはやこれ以上待つと、大きな星を見失ってしまうので、先に行く。砂漠を西へ、急いで追いかけてくれば、きっと途中で一緒になれるよ。一刻も早く追いつかれよ。カスパル。メルキオル。バルサザル。」

やはりダメだったか。ヴァスダ、お前は本当によく走ってくれたのに、残念だ。

ナレーション 三人の仲間に遅れたもう一人の博士、アルタバンの胸には、愛馬ヴァスダに乗って、野を越え、山を越え、昼も夜も走り続けてきたこの10日間のことが、もう一度浮かんでくるのでした。

(音楽) (悲しい感じ)

アルタバン (モノローグ)博士たちと約束したこのボルシツパの丘まで、ずっと走り続ければ間に合ったのだが、あの森の中で、ヴァスダが急に足を止めた…。

(効果音) (馬のいななき)

一人の旅人が倒れていたんだ——。

(回想)

旅人 も、もし、お、お助けくださいまし。み、水をいっぱい…。

アルタバン どうなされた？ む、これはひどい傷だ。強盗にやられましたね？

旅人 は、はい。ご覧のとおり身ぐるみはがされ、有り金全部を取られた上に、散々に打たれまして…。

アルタバン それはひどい。(モノローグ)だがどうしよう。この傷では一日、二日では治るまい。ここで介抱していたら、遅くなって、本当の王様、救い主にお会いできなくなる。かわいそうだが、あとからだれか来るだろう。

旅人 あ、も、もし、旅のお方、い、行かないでください！ この辺はほとんどだれも通らない。もしあなたに行かれたら、わたしは死んでしまいます。ど、どうかお助けを！

(回想終わり)

アルタバン (モノローグ) ずいぶん迷ったが、わたしにはやっぱり、あの苦しんでいる人を見捨てることはできなかった。3日間一緒にいて介抱し、動けるようになってから、ふもとの宿屋まで運んで、主人にお金を渡してあとを託してきたが、あの人は涙を流して喜んでいた。…そう言えばあの人はユダヤ人で、預言者たちの言い伝えによれば、救い主がユダヤにお生まれになると言っていた。カスパルたちの言ったとおりだ。待てよ、あの人は町の名を言っていたぞ。ユダヤの、ベ、ベツ…ベツレヘム。うむ、確かベツレヘム、ダビデの町と言っていた！ よし、三人には遅れてしまったが、ベツレヘムを目指して独りででも旅を続けよう。(間) それにしても、これからは長い砂漠の旅。疲れ切ったこのヴァスダでは、とても無理だ。どうしてもラクダを手に入れなくては。だが、あの旅人を助けるのに、お金はほとんど使い果たしてしまった。どうしよう…。そうだ！

ナレーション その時、アルタバンは、肌身離さず持ってきた3つの宝石のことを思い出しました。この宝石は、アルタバンが、本当の王様、救い主におさげしようと、自分の持ち物をみんな売って用意してきた3つの宝石でした。

アルタバン この中の1つでラクダを飼おう。3つともおさげできないのは残念だが、救い主のもとになんとしても行くことが先決だ。神様も許してくださるだろう。ヴァスダ、お別れだ。長い間、ご苦労だったな。

第3景 ベツレヘムの町

(音楽) (場面転換。重苦しい感じBGM)

ナレーション こうして、青い玉と引き換えに、ラクダを手に入れたアルタバンは、苦しい砂漠の独り旅を続けて、ようやくユダヤの国、ベツレヘムにたどり着きました。

アルタバン (モノローグ) さあ着いた。やっと着いたぞ！ 長い旅だった。…それにしても、ここはまた山の途中にできたような小さな町だ。聞くところでは、この町であるダビデ王が即位なさったという。そして今、あの約束のメシヤ、救い主がお生まれになったのか。うむ、早速町の人に、先に来ているはずの三人の仲間のことを、救い主のことを聞いてみよう。…そうだ、あの赤ん坊を抱いた女の人がいい。

母親 あ、ちょっとお尋ねします。このわたしと同じような服装をした人たちをご存じないでしょうか？ この町に、ラクダに乗ってやってきた博士たちなのですが。

アルタバン え？ ええ、その方たちなら、お見かけしましたよ。もう3日ほど前ですが、何せ見かけないでたちをしたラクダの三人でしたから、ちょっとした町の話でした。確か、遠い東の国から、星に導かれてやってきたとか。なんでも、新しいユダヤの王様の誕生だというので、始め、隣のエルサレムのヘロデ王様のところに行き、そこでベツレヘムだと聞いてやってきたと言っていましたよ。

アルタバン そうです、その人たちです！ その博士たちは、今どこにいるのでしょうか？

母親 それがねえ、もうここにはいないんですよ。町に着くなり、町の人を片っ端からつかまえて、「新しい王様、キリスト様はどこにおられる？」と聞いてたんですけどね。そんなことだれも知りやしませんよ。わたしもね、トンと見当もつかなかったんだけど、そう言えば2年ほど前に、ここの羊飼いたちが、「救い主、キリスト様が生まれたぞ！」って、躍起になって触れ回っていたのを思い出したんで、もしやあの家族のことかと思って教えてやったんですよ。

アルタバン そう、その方です。それに違いない！ それで？

母親 あの人たち、ずっと北のナザレからやってきたヨセフとマリヤっていうご夫婦なんですけどね。なんでもご先祖がこのベツレヘムの出身で、2年前のローマ皇帝様の人口調査で、ここへ来た時に赤ちゃんが生まれて、名前は、ええと、確か“イエス”といいましたね。あん時、羊飼いたちが、その赤ん坊がキリスト様だと言っていたのを思い出したもんで、その家まで——家と言っても町外れの宿屋の納屋で、馬小屋に毛の生えたようなあばら家なんですけどね——連れてったら、大喜びで、その赤ちゃんにささげ物をして、すぐにまた国へ帰っていききましたよ。

アルタバン そうですか…。あ、それじゃ、そのイエスという赤ちゃんの家はどこですか？わたしにも教えてください。

母親 それがね、不思議なことにあの一家もいなくなっちゃったんですよ、次の日。夜の明けないうちに、こっそりどっかへ行っちゃったんでしょうね。わたしが朝行ってみたら、もぬけの殻で、もうそれっきり。

ナレーション せっかくここまでたどり着いたアルタバンにとって、それはなんと悲しい知らせだったことでしょう。一足違いで、三人の仲間にも、待ち望んだイエス様にも会えなくなってしまったのです。——その時です！

(音楽) (ショッキングな感じ)

男1 大変だ！ 軍隊が来たぞ！

女1 ヘロデの軍隊が赤ん坊を殺しに来る！

(効果音) (複数の馬の疾走。いななき)

女2 早く隠さないと大変よ！

男女 (口々に)「キャー、助けて！」「うわー、お願いだ、殺さないでくれ！」

<後編>

男1 大変だ！ 軍隊が来たぞ！

女1 ヘロデの軍隊が赤ん坊を殺しに来る！

(効果音) (複数の馬の疾走。いななき)

女2 早く隠さないと大変よ！

男女 (口々に)「キャー、助けて！」「うわー、お願いだ、殺さないでくれ！」

兵 1 さあ、手分けして赤ん坊を探せ！

兵 2 2歳以下の男の子だぞ。分かったな！

ナレーション アルタバンと話していたこの女の人は、赤ちゃんをしっかりと抱き締め、真っ青になって家の中に隠れました。

兵 1 おい、その家には赤ん坊がいるな？

アルタバン は？ い、いいえ、ここにはおりません。

兵 1 ウソをつけ！ 今しがた女が入っていくのを見たんだ。お前は亭主か？ さあ、どけ！

アルタバン いやいや、あれはまれはまだ年端も行かない娘です。赤ん坊なんぞ決して。

兵 1 ええい、邪魔をするとお前もたたっ切るぞ！そこをどけ！

ナレーション もみ合いながら、このままでは赤ん坊は殺されると知ったアルタバンは、とつさに懐に手を入れると、肌身離さず持ってきた宝石の1つを取り出しました。

アルタバン ま、待ってください！ さあ、これ、この宝石、ご覧ください。殺しても何もならないか？赤ん坊一人より、兵隊様、この真っ赤に輝く宝石のほうが、はるかに値打ちがありましょう？

兵 1 何？（宝石を見る）ふんふん、なるほど。これをわしにくれるというのだな？——よかろう。おおい、ここには子供はおらん！ 向こうを探せ！

母親 旅のお方、あ、ありがとうございます！

ナレーション アルタバンの大切な2つ目の宝石は、こうして一人の赤ちゃんの命を救うために、使われてしまいました。救い主にささげるために、残されたものは、たった一つだけとなってしまったのです。

第4景 エジプト

（音楽） （エキゾチックな感じ）

ナレーション それから何年たったことか。アルタバンは、長い旅をしながら遠くエジプトにやってきました。三人の仲間が救い主にお会いして国に帰ってからも、一足違いでお会いできなかった彼は、あきらめきれずに、ユダヤの国中を探し続け、そこで風の便りに、イエス様がエジプトに行かれたと聞いて、やってきたのです。

アルタバン もしもし、ちょっとお尋ねします。

女 1 はい、何か？

アルタバン ひょっとしてあなたは、ユダヤの国から来られたイエスというお方をご存じないでしょうか？ まだ小さい男の子ですが。

女 1 イエスですか？ 知りませんねえ。

アルタバン もしや、イエスという男の子を知りませんか？ 父親はヨセフ、母親はマリヤというんですが。

男 イエス？ さあねえ。この辺にや、イエスなんて名前の人間はいないぜ。

アルタバン すみません。もしや…？
男女 (口々に)「知らないわ」「聞かないねえ」…
ナレーション 広いエジプトのこと、あちらの町、こちらの村を訪ね歩いて、どうしてもイエス様にお会いすることはできませんでした。その間にもアルタバンは、困っている人がいればすぐに助け、苦しんでいる人を慰め、食べ物のない人には食べ物を、着る物のない人には着る物をと、本当の愛の行いを忘れませんでした。

第5景 エルサレム

(音楽) (静かな寂しい感じ)
ナレーション こうして、アルタバンが故郷を離れてから、いつの間にか30年余りの長い年月が過ぎ、アルタバンはすっかり年を取ってしまいました。あと何年生きられるか分かりません。アルタバンは、“もしかしたら”と最後の望みをかけて、もう一度イエス様の国、ユダヤに帰ってきました。ところが――。
(効果音) (群集のガヤ)
ナレーション エルサレムの町に入ると、それは それは大変な騒ぎ。みんなが町外れへと駆けていきます。
アルタバン あ、もし、いったい何が起こったのですか？
男 何が起こったって？ お前さん、知らないのかい？ ナザレのイエスって人が、十字架にかけられるってんで、引っ張っていかれるところなんだよ。
アルタバン え、ナザレのイエス？
(モノローグ) それではもしや、わたしの探しているあのイエス様では？
あ、あの、そのイエスというお方は、どのようなお方で？
男 あんた、何も知らねえんだな。ははん、外国の人か。あん人はなあ、偉い預言者よ。ここ2、3年の間、この辺りや、ずっと北のガリラヤの町々で、いろんな奇跡をやって、たちまち評判になった人なんだよ。なんでもその前までは、そのガリラヤのナザレの貧しい大工の子せがれだったというんだが、いつ、どこでそんな力を身に着けたのか、大したもんだよ。行く先々で、神の国や愛の教えを説いて回りながら、病人を治したり、死んだ人を生き返らせたり、悪霊につかれた男を正気に返らせたり、かと思うと、5000人以上の人たちを、たった5つのパンと2匹の魚でたらふく食べさせたとか、あらしを一声で鎮めたとか。そのうち、おれたちユダヤ人はだれも行かねえあのサマリヤのやつらにまで教えを垂れに行っただって話だよ。だから、おれたちの仲間うちじゃ、あん人こそひょっとして、預言者たちから言い伝えられてきた、メシヤ、キリスト様じゃねえかってうわさしてたんだ。
アルタバン メシヤ…。ああ、やっぱりあのお方じゃ。まことの王、キリスト様じゃ。そ、そのキリスト様が、どうしてまたむごい十字架なんぞに？

男 さ、それさ。それがおれにもよく分からねえ。つい1週間前、あの人はロバに乗って、この町に入ってきた。あのうわさのイエス様だってんで、町を挙げて熱狂して迎えたもんだ。それがこの2、3日のうちに、「あのイエスってんのは、自分を神様だと言ったり、あのダビデ王様の神殿を3日のうちに建ててみせるとうそぶく、とんでもないイカサマ野郎だ」なんてうわさが流れ出して、そのうち、ローマ総督に捕まったと思ったら、一晩のうちに死刑だってんだ。ま、大方、あの学者やパリサイ派の連中が、ねたんで、あることないことでち上げて、そうさしちまったんだらうよ。ひでえ話だぜ。それでおれも見に行くところよ。じいさんも行くんなら急いだほうがいいぜ。じゃあな！

ナレーション アルタバンは、あまりの話にぼう然と立ちすくんでいました。その時です。

娘 助けてください！ お願いします。わたしは奴隷に売られていくのです。あの、あの…兵隊が捕まえに来るのです。助けて！

兵 (オフ)あ、あそこだ！ (オン)おい、その娘をこっちへよこせ！ 邪魔立てすると承知せんぞ！

アルタバン ですが兵隊様、まだこんな年端も行かない娘です。どうかお見逃しくださいませんか？

兵 黙れ！ この娘には高い金がかかってるんだ。それとも、お前がその金を払うとでも言うのか？

娘 おじいさん、お願い。わたしには病気のお母さんや、幼い妹もいるの。お願いします、助けて！

アルタバン (モノローグ)これだけは、イエス様にささげようと、最後まで大切にしてきた宝石だ。だが、この宝石を渡せば、この娘はひどい目に遭わなくて済む。——よし！

ナレーション とうとうアルタバンは、30年も持ち続けてきた宝石を、一人の名も知らぬ少女を助けるために、手放してしまいました。

第6景 ゴルゴタの丘

(音楽) (暗く不気味な感じ)

ナレーション 時はもう午後3時ごろになっていました。突然の出来事に、思わぬ時間を取られてしまったアルタバンは、疲れ切った体を引きずるようにして、イエス様が十字架につけられたという、ゴルゴタの丘を登り始めました。助けられた少女は、うれし涙にむせびながら、アルタバンの跡を追います。

(効果音) (地震、地鳴り)

ナレーション すると、辺りが急に暗くなり、激しい風とともに大地震が起こりました。するとアルタバンは、雷にでも打たれたように、突然倒れました。

少女 あ、おじいさん、しっかりしてください。おじいさん、おじいさん！

ナレーション 少女の胸に支えられたアルタバンは、もう二度と起き上がれそうになく、じっと目を閉じていましたが、やがてわずかに唇を動かして、だれかに返事でもするように、何か言い始めました。

アルタバン いいえ、イエス様、わたしはあなたをお助けした覚えはございません。森の中で旅人を助けた時？ 赤ん坊の命を救った時？ この娘を自由にしてやった時？ ——はい、けれどもわたしは、イエス様に何もいたしてはおりません。いや、それどころか、おささげするはずの三つの宝石も、とうとう…。

ナレーション その時です。アルタバンの耳には、はっきりとイエス様のお声が響きました。

イエスの声 (エコー)あなたが、この人たちにした愛の行いは、わたしにしたのと同じなのです。

(音楽) (終曲。荘厳で輝かしい感じ)

ナレーション アルタバンは、安心したようにニッコリ笑うと、そのまま静かに天に召されました。

イエス様を慕い、イエス様を愛し、また自分の周りの人を心から愛することのできた、アルタバンの心と行いこそ、三つの宝石よりもすばらしい、イエス様へのささげ物だったのです。

(音楽) (次第に高まって——)

<完>